

WAVE TIMES | VOL.16

札幌市民交流プラザ情報誌



Kバレエカンパニー
「シンデレラ」
芸術監督
熊川哲也

アーティストボイス
服飾家
スズキタカユキ

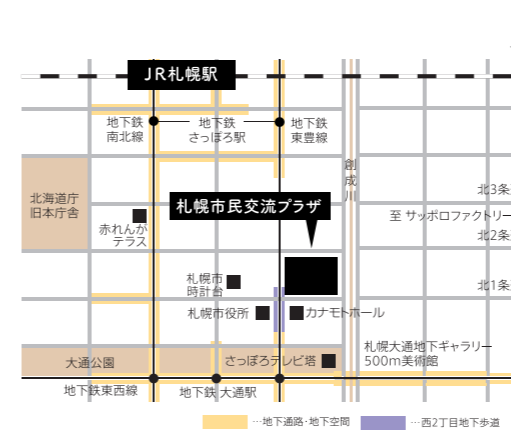
PLAZA SpotLight
hitaru バレエプロジェクト プレ公演
「白鳥の湖」ができるまで

hitaru TOPICS
高嶺 格
歓迎されざる者～北海道バージョン

SCARTS TOPICS
クワクボリョウタ
リモート時代の
存在感

cover art : Baku Maeda / Pucker & Bloat [Lautrec / Le Divan Japonais]

札幌市民交流プラザ SAPPORO COMMUNITY PLAZA



地下鉄「大通」駅直結

札幌市中央区北1条西1丁目 さっぽろ創世スクエア

WAVE TIMES

「WAVE TIMES (ウェーブタイムズ)」は、「札幌市民交流プラザ」のトピックスや公演・イベント情報などを発信している冊子です。

札幌市民交流プラザ情報誌 vol.16 発行 2021年8月20日

発行元

公益財団法人 札幌市芸術文化財団 札幌市民交流プラザ

〒060-0001

札幌市中央区北1条西1丁目

TEL:011-271-1000 (9:00-22:00 ※休館日を除く)

◎本誌からの写真・文などの無断転載を禁じます



※イベント内容は8月3日時点のものです。やむを得ない事情により、開催期間、開演時間、出演者、曲目などが変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

札幌文化芸術劇場 hitaru オフィシャルスポンサー



あいプラン、MORIHICO、アミノアップ、伊藤組土建、岩倉建設、岩田地崎建設、大通り矯正歯科、札幌駅前通まちづくり会社、札幌大通まちづくり会社、札幌市交通局、札幌都市開発公社、サッポロホールディングス、ANAクラウンプラザホテル札幌、札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル、ジェイ・アール北海道バス、じょうてつ、ANA、大和証券、日本航空、福山倉庫、北海道エアシステム、北海道科学大学、北海道中央バス、北海道テレビ放送、丸彦渡辺建設、萬田記念財団、三井不動産リアルティ札幌、よつ葉乳業、Life&Ceremony、北海道ガス、會澤高圧コンクリート、旭イノベックス、SOC、遠藤興産、三精テクノロジー、大成建設、大丸札幌店、トーヨーエンジニアリング、日建設計、北海道グリーンメンテナンス、豊建商、氏家記念こどもクリニック、クリーンアップ、ホクリョウ、北海道銀行、朝日新聞社、アムテック、アルシス、若本・佐藤法律事務所、ウエス、エイト設計、片桐企業グループ、TAT札幌、弁護士法人北空、KDDIエボルバ、さくら総合会計、札幌商工会議所、札幌スバインクリニック、札幌デンタルケア、さっぽろ内科・リウマチ膠原病クリニック、ジャパンテクニカルソフトウェア、庄内こどもの歯科、蘇春堂形成外科、タイムズ24、みよしの、さっぽろ東急百貨店、内科丹田クリニック、博愛会、福住泌尿器科クリニック、北海道熱供給公社、北海道マツダ、マウントアライブ、みたに胃腸内科、南一条脳内科、明治安田生命、元町皮膚科、山二、吉田記念病院、六書堂、和らいふ、北海道放送、札幌テレビ放送、北海道文化放送、テレビ北海道

熊川



10月2・3日、札幌文化芸術劇場 hitaru (ヒタル)で、Kバレエカンパニー「シンデレラ」が上演されます。旭川生まれ、北海道出身の芸術監督・熊川哲也氏に、自身のこれまでの歩みと、作品について伺いました。

Bunkamura オーチャードホール ©Takashi Okamoto

哲

Tetsuya Kumakawa

也

ダンサーたちが
舞台上で喝采を浴びる
その瞬間が喜び

Kバレエカンパニーを率いる熊川哲也氏の、ダンサーとしての原風景は、北海道にあります。札幌で、

10歳で初めてバレエのレッスンを受けた日のことを「覚えてますよ。初日に買ってもらったレオタードやバレエシューズを手に取った時に、うれしかった気持ちも」と熊川さん。

早々に才能を見いだされ、東京でのレッスンを受講するようになって、これまで接して来なかった特別な世界に出合います。「わかりやすい言葉でいうと『リッチ』な人たち。毛皮のコートを着て、ステッキ

を食べているような大人(笑)。憧れの気持ちもありましたよね」。

それからわずか5年後には海を渡り、英国ロイヤル・バレエ学校に入学。「チャンスは自分でつかまなくちゃと思っていました。講習会で(バレエディレクターの)ハンス・マイスターと出会い、彼が留学を後押ししてくれた。僕の人生の恩人です」。そして2年後の1989年にローザンヌ国際バレエ・コンクールで日本人初の金賞を受賞し、東洋人として初めて英国ロイヤル・バレエ団に入団します。

人よりも上手く踊れて
トータルプロデューサーができてこそ
初めて超一流と言える

英国ロイヤル・バレエ団での約10年間を振り返り、「あつという間では今後進むべき道について考えていたと思います」。フィジカルへの負担が大きい男性ダンサーは特に、セカンドキャリアが必然。ミュージカルに転向したり、庭師に転職したりと、さまざまな先輩ダンサーの姿を目にしました。「実際は、自分が踊りたければいくつになっても舞台に立てる職業だけど、当時の自分は、それは難しいことと思っていました」。

かくして熊川さんは、世界的な名声を得て人気絶頂の1998年に英国ロイヤル・バレエ団を退団し、翌年、仲間と共にKバレエカンパニーを創立。20代での決断に、不安はなかったのでしょうか。

「自分がダンサーとして一番の戦力だったので、演目と構成さえ間違わなければ大丈夫だろうという。根拠のない自信ですね。単独プレイが好きなので、すごく自由になった気がした。今思えば賭けだけど、限界を知らない自分だったからよかったのかも」

けれど、ダンサーとしての才能と、組織運営に求められる能力は別なのでは?と尋ねると「シエフなら、料理の腕だけではなく、お皿やインテリアを含めたトータルプロデューサーの能力に優れていてこそ超一流。それはアーティストもプレイヤーも同じでは」との答え。では、自らの感性が創作や表現に直結する仕事に身を置く立場で、日頃から心がけていることはあるのでしょうか。「いや『心がける』という時点で、すでに自然じゃないこと。

恐怖や喜び、幸せ。日々の暮らしで目から入ってくるものすべてが大切に、それがプラスに働くこともマイナスに働くこともある。感受性も振り子のように揺れ幅があるんだと思う」。

また、現在は新しい物より古い物に愛着を感じ、音楽家の直筆による楽譜や、古書などを収集しているそう。「そこには、確かに偉人が生きていたんだなと感じられるロマがある。現代の新しいテクノロジを開発した人はすごいと思うけど、それが過去のものになったらただの機械だよな」。クラシック音楽や昔の映画を鑑賞しながら、その時代にトリップするのが、自分にとっての大切な時間。「でも、それにはワインやウイスキーがマストアイテム。そうするとつい深酒になっちゃうのがネットワークで、最近は禁止しています(笑)」。



©Hidemi Seto

新たなチャレンジだった
思い出深い作品「シンデレラ」を
札幌の劇場で初上演



© Makoto Nakamori

この秋、札幌で初上演される『シンデレラ』は、2012年に、熊川さんのBunkamuraオーチャードホール芸術監督就任記念作品として初披露されました。

「自分が出演せず、演出家に徹して12回公演を完了した思い出深い作品。何年経っても色あせない魅力と感動があるし、登場する馬車に外国車1台分くらいの予算がかかっていたりもする。札幌の新しい劇場で、ぜひ本物を観てもらいたいです」

美術や衣裳など、世界トップクラスのスタッフとのコラボレーションで作上げたその舞台は、「百年後も残る、Kバレエの財産ですね」と話します。

「コロナ禍で多くの人が恐怖に怯えながら過ごしている今、シンデレラの等身大のストーリーに共鳴していただけたら、苦しいけれ

ど耐えていけばきつと、その先には満天の星が待っているような」

熊川さんにとって、愛情を注ぎこんだ自分の作品を観た時に勝る感動はなく、「大変な思いをして生み落とした作品を、育てたダンサーが演じて喝采を浴びること」には、かけがえない喜びを感じるぞう。

「僕はレンタカーで走っても愛車と違って全くおもしろくないし、高級ホテルのスイートに泊まるよりも、別荘が落ち着く。自分が愛情を持てる物にしか、興味がわかないんです」

10月には愛着がある札幌へ。「北海道の匂いは大好きです。いつも自分を温かく迎えてくれる土地での公演ですからね。今回、僕は応援団だけど、もちろん劇場へ行くし、付度はしますよ(笑)」。

Kバレエカンパニー芸術監督、北海道生まれ。10歳よりバレエを始める。1987年、英国ロイヤル・バレエ学校に入学。89年、ロサンゼルス国際バレエコンクールで日本人初のゴールドメダルを受賞。同年、東洋人として初めて英国ロイヤルバレエ団に入団し、93年、プリンスバルに任命された。99年、自身が芸術監督を務めるKバレエカンパニーを設立。以後オリジナルプロダクションを上演・主演。近年は、完全オリジナル作品『クレオパトラ』『マダム・バタフライ』を世界初演し成功を収める。2012年、Bunkamuraオーチャードホール芸術監督に就任。13年、紫綬褒章受章。



©中森真

Tetsuya
Kumakawa
Interview

10月3日の『シンデレラ』札幌公演で王子役を踊るのは、地元・札幌出身の若きファースト・ソリスト、栗山廉さんです。

誰もが憧れるこの役を踊るのは、今回が3度目。ほかの王子役との違いを尋ねると、「たとえば『白鳥の湖』のジークフリードは、物語の中で悩み成長していきます。それに比べて『シンデレラ』の王子は、すでに完成されている印象。舞台上に出てきた時から王子然としたふるまいが求められます」。

自身が語る見せ場は、何といっても第2幕の登場シーン。「鮮やかなグリーンのコスチュームで、ジャンプや回転、キメポーズまで、体のライン、正確な技術などすべてで端正なルックスの『理想の王子』を表現します」。

また、栗山さんが感じている作品自体の魅力は、「プロコフィエフの音楽は聞きなじみのない曲が多いかも知れませんが、それがセットや衣裳、踊りととても良くマッチしています。冒頭のかわいそうな雰囲気から、うって変わってハッピー

な展開になるエンターテインメント性もありますね」。

演出の熊川氏が、自分にも栗山さんにも「プレッシャーをかけた続ける」と話されていたことを告げると、「配役していただいた時から、任される責任を感じています。これがKバレエカンパニーとしても実に8年ぶりの札幌公演。「入団当時から、いつか地元の舞台上に立てたら」という気持ちがありました。北海道への地元愛と、感謝の思いを込めて踊ります。なかなか観られる機会のない演目だと思いますので、ぜひお楽しみください」。

Kバレエ カンパニー「シンデレラ」

王子役 ファースト・ソリスト ●

栗山 廉

Ren Kuriyama



北海道生まれ。10歳よりバレエを始める。2008年、ベルギー王立アントワープバレエ学校に留学。10年、ルードラ・ベジャール・ローザンヌに入学。12年に同校を卒業。14年、Kバレエカンパニーにアーティストとして入団。16年にファースト・アーティスト、18年にソリスト、20年にファースト・ソリストに昇格。出演作に熊川版『白鳥の湖』のジークフリードほか多数。



© Ayumu Gombi

PLAZA FESTIVAL 2021

Daiwa House® PRESENTS

熊川哲也 Kバレエ カンパニー
Autumn Tour 2021

シンデレラ

10.2 sat / 3 sun 札幌文化芸術劇場 hitaru
両日13:00開演(12:00開場)

2012年の初演以来、劇場をこの上ないときめきと感動で満たしてきた、ロマンティックなグランド・バレエ、熊川版『シンデレラ』。幕が上がった瞬間に、童話を越えた夢の世界へと観客を誘う。誰もが知るストーリーをより新鮮に輝かせるキャラクター造形と、観る者を魅了する美しい魔法の数々が、舞台上で繰り広げられる作品。Kバレエカンパニーが誇るバレリーナたちの、美の競演も見どころのひとつだ。熊川哲也が生んだ至高のファンタジーが、この秋、札幌へやって来る。

【全席指定・税込】SS席15,000円、S席13,000円、A席10,000円、B席8,000円、C席6,000円、D席5,000円、U25 各席2,000円引き(SS席は除く)
問い合わせ先:道新プレイガイド TEL 0570-00-3871



© Ayumu Gombi

この魔法は、奇跡のように美しい——
Kバレエが贈るシンデレラ北海道初上演！

かがみ まど とびら

作・演出 藤田貴大

TAKAHIRO FUJITA INTERVIEW



©井上佐由紀

劇場公演は「待ち合わせの約束」 北海道で18歳の自分に立ち返る

8月10日と11日にクリエイティブスタジオで行われた演劇公演「かがみ まど とびら」。
作・演出を手がけた藤田貴大氏に、創作の原動力や北海道への思いについて伺いました。

— 大人も子どもも楽しめる作風で人気の藤田さんの公演ですが、作劇のスタンスや演劇ファンへの思いをお聞かせください。

最近考えているのは、やはり自分は「場」を作りたいんだなあ、ということ。そのためにさまざまな人たちと関わりながら、空間を成立させる準備をしているのだと思います。演劇というのは、ある物語を観せるだけのものなのか？と常に自問自答を繰り返しています。劇場で、僕らは観客の皆さんを待っています。その日、その時間に待ち合わせの約束をしている感覚を忘れずに活動していきたいですね。

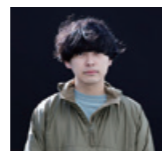
— コロナ禍の影響で演劇界も逆風にさらされていますが、今後の活動目標や予定を教えてください。

もちろん大変な状況だというのは、現在という時間を生きているすべての人がそう感じていることだと思います。ただ、誰しもに営みがあるように、僕らも演劇を営んでいるので、この営みをやめるわけにはいきません。気をつけなくてはいけないことも増えましたが、この環境下で演劇はどう可能なのか、考え続けて探っていきたいですね。新しい形の表現が生まれる一つのチャンスとしても捉えています。これからも旅公演は続けたいと思っていますし、来年も再来年もツアーの予定が入っ

ています。その行く先々で、再会したり、出会ったりするのが、今から楽しみです。

— 2019年の『めにみえない みにしたい』札幌公演の好評を受けて、再びクリエイティブスタジオでの上演となりました。藤田さんは伊達市出身ですが、地元北海道への思いはありますか？

18歳の自分に見つめられている気がするんですね、北海道へ帰ると。「あの頃の自分が現在の自分を見たら、その目にどう映るんだろう」と考えてしまっ。なので、他の土地へ公演に行くよりも、特別に緊張するのかもしれませんが。ある意味、自分自身に厳しくなれるというか、身が引き締まるというか。だからこそ、北海道での公演はいつでも楽しみにしています。



1985年生まれ。マームとジブシー主宰、演劇作家。2007年にマームとジブシーを旗揚げ。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的な手法で注目を集める。12年に3連作『かえりの合図、まった食卓、そこ、きつと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞を受賞。16年、今日マチ子原作の『cocoon』（再演）で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。演劇作品以外でもエッセイや小説、共作漫画の発表など、活動は多岐に渡る。20年7月、初の小説集『季節を告げる轟轟は夜が知った毛毛毛』(河出書房新社)を上梓。

ステージをより華やかに
演劇や舞踊、ミュージカル、バレエ、オペラなどの舞台芸術を華やかに彩る衣装の世界。舞台衣装は、ステージ上の演じ手の表現活動を手助けしてくれる重要なアイテムです。

歴史的に見ると、紀元前6世紀頃の古代ギリシア演劇の確立とともに舞台衣装も定着。巨大な野外劇場で映えるように、役者は大ぶりの衣装を身にまとい、頭からすっぽりと仮面をかぶって登場しました。中世に入り、ヨーロッパで盛んに演じられた宗教劇では、祭服が衣装に。またイギリスのエリザベス朝時代には、宮廷からのお下がりを着用して、シェイクスピア劇が演じられました。19世紀後半からは、現代演劇が急速に発展。電気照明が導入され、時代考証や風俗考証を重視した、よりリアルな衣装づくりが主流に。

シャネルのドレスも
著名なファッションデザイナーが、自らステージ衣装を手がけるケースもあります。

CHANELブランドの創設者、ココ・シャネルは1920年、パリ・オペラ座のバレエ公演『春の祭典』を支援することに。以来、息をのむほどに美しい、現代的なスタイルのドレスを次々と考案。従来のバレエの衣装とは一線を画するその独創的なコスチュームは、着用するバレリーナたちの動きやすさや快適性も考慮したデザインになっていました。

演劇をはじめとしたさまざまな公演の舞台裏で、衣装の準備を担当する通称「衣装さん」には、登場人物のキャラクターやストーリー展開を理解し、演出意図や考証も踏まえた上で、役者の体格に合わせた装いを見立てる総合力が求められます。

— 所してももちろん私たち観客にとっては、キャスト陣が身にまとう絢爛豪華な衣装の数々も、大なる見どころの一つと言えるでしょう。



illustration : Yumiko Noguchi



まちの劇場を、もっと身近に。
舞台や劇場の楽しみ方をご提案します。
[VOL.11: 演劇・舞台衣装デザイン]

経年変化が感じられる服、人と服が一体となる相乗効果を

服飾家・スズキタカユキ氏は、自らのブランド「suzuki takayuki」を通じて繊細で緊張感のある服を作り続け、これまで映画・ダンス・音楽など数多くのアーティストの衣装を手掛けてきました。最近では、BUMP OF CHICKEN、ゆず、安藤優子、坂本美雨、満島ひかりなどの衣装を手掛け、米津玄師への衣装提供も。8月にクリエイティブスタジオで行われた演劇作家・藤田貴大「かがみまごととびら」の衣装デザインも担当しています。

—2015年に根室へ移住した理由をお聞かせください。

根室に移住した友人に強く勧められ、妻と一緒に行ってみると、根室の風景があまりにも素敵でした。厳しくも美しい自然がすぐそばにあり、生きていることを意識させられる土地。緯度が高いせいなのか、東京とは光の角度が全く違うんですね。見るものすべてが新鮮で美しく、光に魅せられたのが移住した理由の一つです。

—ファッションを手掛けるようになった経緯をお聞かせください。

もともとファッションデザイナーを目指していたわけではなく、東京造形大学で学んでいたのはグラフィックデザイン。当時は90年代後半で、クラブイベントや学園祭などでファッションショーが頻繁に開催されていて、イベントに誘わ

「時間」は、人間の世界と密接に関わっているもの。自分と一緒に時間を過ごしていくものとしての服に惹かれ、経年変化が感じられる素材を用いています。わざと古いパーツを使つて違和感を出すなど、あえて時間軸をずらすことで不思議な感覚を表したりもします。また服は、人が着て初めて完成するもの。人と服が一体となる相乗効果で、その人自身が持つ魅力を引き立てたり押し上げたりする。そうした一体感のある美しさを表現しようと、「調和」をもつ一つのテーマとして掲げています。

自分が自分らしくいられる、美しいと思える場所を大切にしたい

—洋服作りのこだわりをお聞かせください。
着ることで経年変化が感じられる天然素材を用いていますが、古いものをそのまま使うのではなく、常に新しいものを創り出したいと思っています。古いものから考え方や価値観を抜き出し、現代の価値観と突き合わせながらデザインに落とし込んでいく。旬な時代感のものでは無いかもしれませんが、普遍的で面白いスタイルだと思っています。

—「自身パフォーマンスを行っている」「仕立て屋のサーカス」についてお聞かせください。

「仕立て屋のサーカス」は、音楽家の曾我大穂に誘われて、何人かのメンバーと結成した舞台芸術集団。サーカスの普遍性に即興性を交えた

連載 | アーティストボイス

服飾家 スズキタカユキ

映画俳優、ダンサー、ミュージシャンなどの衣装を数多く手掛け、ファッションデザイナーとして、またパフォーマンスアーティストとしても活躍。根室と東京の2拠点で創作活動続けるスズキタカユキ氏にお話を伺いました。



photo / osamu yokonami



「時間と調和」から、新たな価値を創造する



photo / ryoko takahashi

photo / ryoko takahashi

右ページ右: suzuki takayuki / marriage, 左: suzuki takayuki / costume
左ページ上: 光が美しい根室の原風景、下: 根室のアトリエ

れ、見よう見まねで洋服を作り始めました。大学2年のとき、友人と初めての展示会を開催。作ったのは、石膏や樹脂で固めた服、半分燃やしている服など、アート作品のような服でしたね。

—それからファッションの道に?

大学4年のとき、イラストレーターの黒田征太郎さん、グラフィックデザイナーの長友啓典さん、古美術商の戸田博さんが運営していたギャラリーで展示会をやらせていただき、そこにイラストレーターの宇野亞喜良さんが見に来てくださったのです。宇野さんは、寺山修司の舞台を手掛けるなど舞台美術、芸術監督としても活動されていた方。そのとき「芸術監督を務めているダンスカンパニーで衣装を作らないか」と誘っていたので、それから舞台衣装を作り始めました。

—「自身のブランド「suzuki takayuki」を立ち上げた経緯をお聞かせください。

立ち上げたのは2002年。当時はファッション系のスタイリストやカメラマンがアーティストの撮影を担当するようになり、そうしたクリエイターとの仕事が増えていくうちに、ファッション関係の方々とのつながりも増え始めました。そこで「これだけスタイルがあるならブランドを立ち上げてみては」と勧められ、ブランドを立ち上げたのです。

—ブランドのコンセプト「時間と調和」が意図するものは?

ステージを展開しています。ダンサーやパフォーマンス、アーティストは、本番ことにすごい瞬発力でエネルギーを放出しますが、彼らを感じているものを少しでも自分でも感じることができれば、服づくりに面白影響や強い変化が得られるのではと考えました。布を用いた作画的では無いものづくりの姿が、ある種のダンスやパフォーマンスと同様のエネルギーを発します。

—北海道で創作活動続ける理由は何ですか?
時代は大きな節目を迎え、デザイナーやものづくりの価値も変わつていこうとしています。これからは愛に飾ったり取り繕ったりせず、自分が本来持っているものを大切に作る時代になると思います。自分が自分らしくいられる、美しいと思える場所を大切にしたいと考えています。

—クリエイターを志す若者にメッセージをお願いします。

自分を信じる。不安になる必要はなく、自分が信じるものに思いきり打ち込んでほしい。アイデンティティとは、国籍や人種ではなく、すでに自分に備わっているものから。

1975年愛知県生まれ。東京造形大学在学中に友人と開いた展示会をきっかけに、映画・ダンス、ミュージシャンなどの衣装を手掛けるように。2002年、自身のブランド「suzuki takayuki」を立ち上げる。「時間と調和」をコンセプトに、実験的なアプローチとリアリズムが同居する上質な大人の衣服を制作。舞台衣装やアーティストの衣装デザインを幅広く手がけ、自身が参加するパフォーマンス「仕立て屋のサーカス」は、各界のクリエイターから称賛を集めた。15年根室に移住。東京と根室を拠点に活動中。16年9月、情熱大陸(MBS)出演。

北海道のチカラを結集した
バレエプロジェクトが始動

札幌文化芸術劇場 hitaru(ヒタル)では、地元のバレエ団体、教育機関、実演芸術家などの協力を得て、hitaruを舞台とした新たなバレエ作品を創造・発信する「hitaru バレエプロジェクト」をスタートさせます。そのプレ公演として、公益社団法人日本バレエ協会北海道支部との共同主催により、2022年2月26日・27日に「白鳥の湖」を上演。演出・振付を篠原聖一氏が務めます。



篠原氏は、3歳から両親(篠原邦幸・沙原聖子)のもとバレエを始め、1973年に小林紀子バレエシアターに入団。78年にはフランスのナンシーバレエ団のツアーにゲストダンサーとして参加し、以降、日本を代表するダンスール・ノール(主役級のバレリーナのパートナーを務める男性舞踊手)として国内外の舞台で活躍してきました。現在は、2001年に

立ち上げた自身の「DANCE for Life 篠原聖一バレエリサイタル」をはじめ、数々の芸術監督、演出振付を務めています。

スタンダードとは異なる演出
新たな「白鳥の湖」の魅力

——来年2月に上演される「白鳥の湖」の見どころをお聞かせください。

「白鳥の湖」は1895年に初演された振付家のブレイバトイワノフによる振付が世界的に多く継承されてきましたが、今回は演出を大きく変えようと思っています。悪魔の呪いにより白鳥に姿を変えられた王女の物語ですが、なぜロットバルトという悪魔がそこに存在したのか？そこからバレエが始まります。2幕、4幕の美しい白鳥たちの踊りのシーンは忠実に描いていますが、注目してもらいたいですね。バレエは難解だと思われがちですが、娯楽的なドラマを観るように楽しんでほしいと思います。

——今回のプロジェクトは、地元の方々の協力によりhitaruを舞台にした新たなバレエ作品を創造しているということですが、こうした取り組みをどう思われますか？

私は以前から劇場発信によるアプローチがどんどん行われるべきだと考えていて、東京からの依頼によるもの

ではなく、地域の人たちが参加し、個々の劇場で企画したものを発信していくことが、これからの時代は重要になってくると思っています。舞台芸術は、バレエに限らず、演劇、ダンス、音楽など、さまざまなジャンルがありますが、それらが一体となるような舞台をつくり、hitaruから発信されたら素晴らしいですね。実際に足を運んで、生で観る踊りや演技、音楽や劇場の素晴らしさを感じ取っていただきたいと思っています。

——故郷・札幌における公演は、どのような思いがありますか？

生まれた土地での公演というのは、非常に緊張しますね。小さいころの記憶が強く残っていて、たとえば藻岩山に一人で登っていて霧が出て道に迷ったり、小樽や銭函あたりを一人で散歩したこと、そういった記憶や体験が積み重なって、今の自分になっているんですよ。若いころにバレエでしごかれた経験も、いい思い出です。

バレエを通じて何かを感じ、人生の支えになってほしい

——長年バレエの世界に携わり、ダンサーとして、あるいは演出・振付家として大切にされていることは何ですか？

私にとって、バレエは自分の表現方法。言葉で伝えるより、作品を通して「篠原はこんなことを考えているのか」と

いうものを表していきたいですね。大切にしているのは、多くの人に楽しんでいただき、何かを感じていただき、人生の何かの支えになってほしいという思い。そういった作品をみんなで創り上げ、生きている喜びを共有する。それが、私たちがやっている「DANCE for Life」に通じる思いです。

——バレエダンサーを志す若者へメッセージをお願いします。

今、小学生になりたい職業を聞くと、バレエダンサーと答える子が非常に少なくなくなっているそうです。今の子どもたちは何事も現実的に考え、実際にお金を稼げる職業を選ぶ傾向に。私は、もともと夢を持つとよ、夢は必ず叶うとは言わないけれど、叶えるチャレンジをしようよと言いたいですね。バレエを志すならプロのバレエ団を目指してほしいけど、バレエをやったことは人生の素晴らしい経験になります。

——公演を楽しみにしている方、あるいはまだバレエを観たことがない方へのメッセージをお願いします。

今回の作品は、ぜひ若い世代の方々に観に来てほしいです。バレエに触れて何かを感じ、興味を持ってもらったり、自分もやってみたいと思っしてほしい。今回の公演が多くの人にバレエの楽しさ、素晴らしさを体感していただく機会になることを願っています。

※篠原聖一氏が演出・振付、妻・下村由理恵氏が主演を務めるバレエリサイタル。2001年から、2年に一度のペースで公演が行われている。

PLAZA
Spot Light ②

hitaru バレエプロジェクト プレ公演

第1回 白鳥の湖が できるまで

The making of Swan Lake

北海道のバレエ団体、スタッフなどが創造・発信する「hitaruバレエプロジェクト」が始動し、2022年2月、そのプレ公演として「白鳥の湖」を上演します。演出・振付を務める篠原聖一氏に、公演の見どころ、舞台に込めた思いを伺いました。

hitaru バレエプロジェクト プレ公演
「白鳥の湖」

2022年2月26日[土]・27日[日] 12月
札幌文化芸術劇場 hitaru 発売予定

[全席指定・税込]
S席8,000円、A席7,000円、B席5,000円、C席4,000円、D席2,000円

※詳細は決まり次第、HP等でお知らせします。

篠原聖一

札幌生まれ。日本を代表するダンスール・ノールとして国内外の舞台で活躍。2001年「DANCE for Life 篠原聖一バレエリサイタル」始動。06年文化庁芸術祭大賞ほか受賞多数。近年は芸術監督、演出・振付家として古典バレエを創作。

SCARTS x hitaru 高嶺格 — 歓迎されざる者

北海道バージョン

札幌文化芸術交流センター SCARTS (スカーツ)と札幌文化芸術劇場 hitaru (ヒタル)は、連携事業として、展覧会制作と実演芸術を融合させた実験的なプログラムを実施します。今回は2018年に文化庁メディア芸術祭京都展「Ghost (ゴースト)」に出展した「歓迎されざる者」の北海道バージョンを8月27日「金」から展覧する。美術家の高嶺格氏にお話を伺いました。

— 美術家を志した経緯をお聞かせください。

小さなころから絵を描くのが好きで、高校に入って美大を志望するようになりしました。受験の際はデザイン系志望でしたが、たまたま合格したのが京都市立芸術大学の工芸科。そこで、先輩の影響もあり漆工芸を選択しました。ただ、漆は最初にプランしたことを計画通りに進めなければならず、すぐに自分に向いてないと痛感しました。それでまったく違ったことをやってみようと思い、パフォーマンスを始めたのです。

北海道の文脈から描く「歓迎されざる者」とは？



1968年鹿児島県生まれ。美術家。その表現は多岐にわたり、映像インスタレーション、写真、彫刻のほか、近年では自らが構成・演出した舞台作品も手掛け、社会システムや集団意識による潜在的な抑圧や支配を、自らの身体を使った表現で批評的かつアイロニカルに可視化する。

何ができるか試してみようと岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー「IAMAS」に入学。そこはメディアアートを学ぶ学校で、コンピュータなど新しいテクノロジーを使った表現や編集を徹底的に学ぶことができ、大きく変わりました。

— 創作する上で大切にしていることは何ですか？

一つの場所に自分を固定したくないという思いが強いですね。パフォーマンスは、もともとマルチメディア的な表現で、全方向を向いている必要があると思います。3か月前に考えたことを変えずにやり続けなければいけない漆とは対極にある世界で、今自分が考えていることをつかまえる感覚が大切。日ごとに自分の状態や考え方が変わり、その集積が作品になっていく感じですね。

— 「歓迎されざる者」はどのような思いを込めた作品ですか？

2018年、北朝鮮の漂着船から白骨化した遺体が発見されたというニュースを聞き、その海岸に行ってみると、警察が切断した船の破片が散乱した状態。そのとき一緒にいた妻が言った「花を持っていこう」という言葉

を聞いた途端、流れ着いた北朝鮮の人々を弔うという視線が大事だと気づき、白装束の人が船の上で詩を朗読するシーンが二気に思い浮かんだのです。詩は京都府立図書館の司書の方に相談して集め、金子光晴や茨木のり子、与謝野晶子など、戦中戦後の反戦詩や、発表できなかった悔しさが込められた詩を選びました。

— 北海道バージョンはどのような展開になりますか？

北海道の文脈から「歓迎されざる者」を想起させる事柄を探っています。詩については札幌で古書店を営む方に相談し、歴史を紐解いて炙り出される世界を深めていきたいと思っています。

— 北海道、札幌の印象はいかがですか？

以前、アーティスト・イン・レジデンスで札幌に滞在して創作したことがあり、そのとき手伝いに来てくれた学生たちと盛り上がり幸せな時間を過ごしました。北海道に来ると、いつもハッピーで元気になり、なぜか声がよく出るようになるんですよ。空気のせいでしょうか。

— 読者の方に「歓迎されざる者」についてメッセージをお願いします。

京都バージョンを作ったとき、SNSに「ようやく人類に見てほしい作品ができました」と書きました。「歓迎されざる者」は、それくらい良くてきた作品だと自負しています。北海道バージョンは、それを超えるような作品にしたいと思いますので、ぜひご覧ください！



— 「ダムタイプ」というパフォーマンスグループですね？

大学1年のときに出会い、活動したのは1990年代の約4年間。80年代の演劇界は喋りまくる舞台が主流でしたが、そのアンチテーゼとしてセリフのない舞台を実践していました。照明や音楽、役者をシンクロナイズさせる映像技術を取り入れ、当時としては世界的にも最先端の取り組みをしていたと思います。

— その後の活動は？

大学卒業後、ダムタイプのツアーの途中でディレクターが亡くなってグループの先行きが見えなくなり、自分一人で



「歓迎されざる者」京都2018年

SCARTS x hitaru
高嶺格
「歓迎されざる者」

北海道バージョン
8月27日「金」9月5日「日」
3F クリエイティブスタジオ



右上：積み木のように重ねた展示架「知的好奇心への道しるべ」 右下：「知のひらめき」
左：お話を伺った札幌市図書・情報館の司書、徳山 希（のぞみ）さん



司書のお仕事

Job of librarian

司書とは、図書館の専門的業務を担う職員です。一般的には本の貸し出し業務を主に行っているイメージが強いかも知れませんが、その仕事内容は多岐にわたります。では、ビジネスパーソン向けに特化した札幌市図書・情報館の司書のお仕事とは――。司書のお仕事を紹介するシリーズ企画、第六弾は来館者の興味を引きつける同館ならではの「展示」について、お話を聞いてみました。

札幌市図書・情報館の1階は、施設のエントランスであると同時に、2階の4万冊におよぶ蔵書へと来館者をいざなう役割も担っています。そこで重要となるのが、来館者の好奇心や知識欲をふくらませ、より奥深い本の世界への導入にもなるような「展示」です。

来館者の興味を引きつけることはもちろん、本とのすてきな出会いを演出するため、1階ではどのような展示が行われているのか。その工夫や狙いについて、司書の徳山希さんに教えてもらいました。

来館者の目を留める 間口の広い展示

「当館は3年前の開館時からずっと、2階を含めて展示に力を入れてきました。いろいろな理由がありますが、まず視覚的に訴えることで、興味を持ってもらいやすいのが一つ。それと、本が手に取られるのをただ待つのではなく、展示を通じて、今読んでほしい本やテーマをこちらから積極的に打ち出していく意図もあります」と徳山さん。

そんな狙いがよくわかるのが、入口右奥の「知的好奇心への道しるべ」と題されたコーナーです。大小の箱を積



同館の全司書のおすすめ本が並ぶ「知のかけら」

み木のように重ねた入れ子式の展示架に、タイトルやカバーが見やすいように本を面出しで陳列。立体的な展示架はひととき存在感があり、また気になった本へすぐに手を伸ばせるのも魅力です。

「ここには2階の『WORK』『LIFE』『ART』の棚から、各ジャンルに興味を持ってもらえそうな書籍を司書がピックアップして置いています。ここで気になる本やテーマを見つけ、2階でさらに深く調べる流れを想定して、『道しるべ』と名付けています」。各ジャンル

をまとめた展示はコンパクトながらも内容は濃く、名前のとおり知的好奇心が自然と沸き上がってきます。

もう一つの特徴的な展示として、入口前の大きな棚を使った「知のかけら」があります。大小17の枠に収まるのは、16人の司書と1人のスペシャリストが選んだイチオシの本。1〜2カ月ごとに入れ替わり、時事的な事柄を扱った本や季節もの、また純粋に選者の趣味嗜好が反映された1冊など、バラエティに富んだ本が並びます。

各枠には司書の名前と担当の棚、その本を選んだ理由が書かれたカードがあり、そこには「初任給で何買った？」などの毎回入れ替わるちょっとした設問に対する答えも。一枚一枚じっくり読んでいくと、各司書の人柄が垣間見えてくるようです。

また、中央付近の「知のひらめき」と題された展示では、毎回一つのテーマに沿って、さまざまなジャンルの書籍を横断して紹介。例えば「出会う」というテーマでも、「夜中の空腹に出会う」と夜食スープのレシピ本があったり、「優秀な人材に出会う」で面接官の質問の本があったりと、司書それぞれのセレクトの妙に、棚を眺めているだけで



楽しい気持ちになってきます。

そのほか定期的に開催しているセミナーに関する展示も、随時行っています。

課題を見つけるための ヒントがここに

「当館は『課題解決型図書館』を標榜していますが、解決すべき課題が明確ではない場合もありますよね。そんな時に1階の展示を見てもらえれば、さまざまなジャンル、テーマの本がそろっていることで、課題に気づけるヒントが見つかるかも知れません。そのヒントを持って2階へ来ていただければ、きつと必要な本や情報と出合えるはず。まずはお気軽に、1階の展示をのぞいてみてください」

リモート時代の存在感

クワクボリョウタ interview

++A&T(プラプラット)の第5弾と美術展「遠い誰か、ことのありか」という二つのプロジェクトに参加するアーティストのクワクボリョウタ氏。コロナ禍の影響で変貌を遂げるコミュニケーションと表現をテーマにお話を伺いました。



撮影：丸尾隆一



リモートで生じる違和感 何気ない「場の共有」を

エレクトロニクスを用いた作品を多く制作し、「デバイス・アート」と呼ばれる独自のスタイルを確立して国内外で高い評価を得ている、アーティストのクワクボリョウタ氏。現在は、テクノロジーやメディアと人との関係性に焦点を当てた創作活動と並行して、情報科学芸術大学院大学で後進の指導にあたっています。この夏から秋にかけて、札幌の中高生を対象としたワークショップを軸に展開する++A&T「プラプラット」と美術展「遠い誰か、ことのありか」という二つのプロジェクトに参加することになったクワクボ氏。アプローチの起点となったのは、コロナ禍に見舞われながらも日々奮闘する学生たちとの交流でした。

「リモートでの授業が本格化して、すでに1年以上が経過しました。しかし、学生たちはその状況に慣れたかという点、そんなことはまったくなくて、むしろストレスや違和感が増しているように感じます。例えば、校内で友だちとすれ違ったときに気軽に声を掛け合ったり、ちょっとした顔色の変化に気づいて『何か

あったの?』と気遣ったり。リモートからはこぼれ落ちてしまう、そんな何気ない『場の共有』が、いかに重要だったかということに改めて気づかされました」

身体感覚をリモート上に 仮想の「おみこし」が出現

「リモートでのコミュニケーションで決定的に欠けているのは、身体感覚です。そこで++A&Tのワークショップでは、4人1組のチームを組み、身体感覚をセンサーで読み取って、ロボットアームを遠隔操作するタスクに挑戦しました。また、それぞれが手足を担当し、チームでキョウドウ(共同/協働)しながら、一つの『syn体』を動かしていくというチャレンジです」

そのイメージは街中を練り歩く「おみこし」。現実の「おみこし」は他の担ぎ手の動きやリズムをリアルタイムで受け取りつつ、自らも息を合わせて一緒に運んでいきますが、その状況をリモートで出現させようというのが狙いです。

「少人数のメンバー同士が、リモート上で互いの存在感を感じ取ることでできる仕組みを目指しました。みんなで一つになってタスクの

++A&T(プラプラット)05
クワクボリョウタ × SCARTS(スカーツ) × 札幌の中高生たち
「キョウドウ体/syn体」 **入場無料**
成果展 ◎9月4日-10月10日 ※9月8日、9月23日-28日は休催
◎SCARTSモールC
〈ワークショップ ◎7月24日・25日 ◎SCARTSスタジオ〉
身体動きをセンシングして、遠隔でロボットアームを動かすワークショップに札幌の中高生が挑戦。チームに分かれて共同/協働で生み出した「syn体」の全貌とは? さらに成果展では、AR(拡張現実)で巨大化した「syn体」が札幌の街に降臨! 「リモート時代の存在感」をテーマに取り組んだユニークなプロジェクト。

「遠い誰か、ことのありか」 **入場無料**
美術展 ◎9月4日-10月10日 ※9月8日は休催
◎SCARTSコート/SCARTSスタジオ
テクノロジーを批判的に扱うクワクボリョウタ、やんツー、大橋鉄郎、岡幸幸という4人のアーティストが新作を発表するグループ展。リモートによる情報伝達が日常化したコロナ禍を通して、改めて気づかされた他者との多様なコミュニケーションの価値とは。リモート時代に他者と共に生きる意味について、作品を通して考えます。

完遂を目指す過程で、ある種の共同体として影響し合う感覚が味わえると思います」
さらにそんなメンバーたちの模様を周囲のギャラリイが見守っているという、実際のお祭り会場を再現するかのよう仕掛けも。
「成果展では、AR(拡張現実)を使って、巨大な『syn体』を札幌の街に登場させます。ぜひ皆さんも体感してみてください」
A-1と紡ぐ不思議な言葉
触覚でつながる作品も
4人のアーティストによる美術展「遠い誰か、ことのありか」でも、リモート時代のテクノロジーを通してたコミュニケーションがテーマに。クワクボ氏は、A-1、触覚研究をヒントに、異なる二つの新作を出展予定です。

一つ目は、A-1を活用した「こっくりさん」。自己と他者の境界線をいったん溶かし、意識と無意識の間から言葉を紡ぎ出そうとするユニークな試みです。
「こっくりさんをA-1に置き換えることで、確かに関与しているものの、どうも自分の言葉じゃないような、不思議な感覚を味わってもらえれば」
もう一つは、人間の知覚メカニズムに関する作品。触覚研究の第一人者である渡邊淳司氏(NTTコミュニケーション科学基礎研究所人間情報研究部)と特別研究員の協力を得て取り組む新しい試みです。
「手や指の感覚を通して、対象の感情や性格を感じ取ることができ

ないか。そんな視点から、体験型の作品を構想しています」
コロナ禍を通して、私たちはリモートの利便性を知ると共に、対面コミュニケーションの大切さも再認識することになりました。
「今後はリモートとリアルのいいところを上手に使い分けていく時代になるのかもしれないね」



作品名: LOST#16 (制作: 2017年) 撮影: 小牧寿里
提供: 札幌国際芸術祭実行委員会

クワクボリョウタ
アーティスト、情報科学芸術大学院大学[IAMAS]教授
<https://ryotakuwakubo.com/>
1971年栃木県生まれ。東京都・岐阜県を拠点に活動中。現代美術を学んだ後、1998年からエレクトロニクスを使用した作品制作活動を開始。デジタルとアナログ、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる事象をクローズアップする作品によって、「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出した。2010年発表のインスタレーション《10番目の感傷(点・線・面)》以降は、観る人自身が内面で体験を紡ぎ出すような作品に着手している。生活と実験のアートユニット、パーフェクトロンの一員としても活動している。

歴史と芸術が響き合う

小樽芸術村
OTARU ART BASE

〒047-0031 小樽市色内1丁目3-1 [似鳥美術館] <https://www.nitorihd.co.jp/otaru-art-base/>

le trois

キレイ、ステキ、オイシイ。

le trois
ル・トロワ

地下直結

大通西1丁目
(大通駅24番出口直結)

営業時間 10:00~21:00
(レストランは11:00~23:00)
※店舗により異なる場合があります。

創造都市さっぽろ WAON

「創造都市さっぽろWAON」は、札幌市の文化芸術振興を応援します。

- ご利用金額の一部を札幌市に寄付させていただき、札幌市の文化芸術振興に活用されます。
- 本カードデザインは、札幌市立大学の学生が制作したイラストを採用しました。

AEON イオン北海道株式会社

DAFNE | story |



ダフネの
春夏秋冬

夏の食材

ニジマス

阿寒湖のニジマスを塩と砂糖だけでマリネにし、凍らせてスライスした上にクリームを巻いて筒状に、和と洋が融合したソースでいただく「阿寒湖ニジマスのフリボリテ ナイアガラと大葉のソース」。

夏の阿寒湖が育む、圧倒的存在感の食材

北海道は6〜8月にかけて草木が生い茂り、湖では豊富な水生昆虫をエサに、魚たちがたっぷり脂を蓄えています。阿寒湖のニジマスも、この時期が旬。湖底が砂利の阿寒湖で育つニジマスは泥臭さがないと評判で、水温が低い環境ゆえに身もキュッと締まっています。

DAFNEでは、そのニジマスをフランス料理の巨匠であるジョエル・ロブションのスペシャリテ「サーモンのフリヴォルテ」をヒントに、アイヌ民族発祥の料理といわれる「ルイベ」を組み合わせた一皿で提供しています。

阿寒湖産は、本当に臭みがありません。他のマスではスモークやオイル漬けなどで臭みを和らげますが、このニジマスには必要なく、とにかく素材の良さを美しく引き出すことだけに注力し、余計なことを引き算して仕上げています。ソースもナイアガラの白ワインと白だしを合わせたソースと、青じそのオイルを組み合わせたシンプルなものに。口の中で一つの味に再構築されるよう計算し、阿寒湖を感じてもらえるようマリモをイメージした見た目にもこだわりました。ただのニジマスではない、阿寒湖のニジマスの存在感を、ぜひ感じてほしいです。

(福江一生シェフ)

チラシクーポンがスマートフォンに届く！
丸井今井 札幌三越 **LINE**

ご登録は
コチラ



maruimai MITSUKOSHI

血液の大切さ、
知っていますか？

勇気会 医療法人
北央病院

札幌市厚別区青葉町11丁目2-10 (南郷通沿い)
TEL.011-892-8531 (代)

生活協同組合コープさっぽろ [CO・OP 共済ニュース]

組合員の皆様の暮らしに必要な保障を支える

組合員の声から生まれた
CO・OP 共済

家族一人ひとりにあったコースを
お選びいただけます

だすけあい あいふくす
プラチナ85 ぐとあい

資料請求はお気軽に！ ☎ **0120-25-9431** □ <http://coopkyosai.coop>
コープさっぽろ各店舗またはトック配達担当者までお問い合わせください

Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部




Coca-Cola

～北の大地とともに～

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. <コカ・コーラ指定会社>

TANAKA MEDICAL GROUP

大きな輪であなたを支えます

笑顔絶やさず。優しさ忘れず。
タナカメディカルグループ

病院

- 札幌田中病院 334床
- 札幌緑誠病院 342床
- 札幌宮の沢病院 355床

介護

- 介護療養型老人保健施設 博友会 127床
- 特別養護老人ホーム 愛輪園 90床
- 介護老人保健施設 愛の里 100床
- ケアハウス ホワイトキャッスル 100床

住まい サービス付き高齢者向け住宅

- ライフコート宮の沢 83戸
- ライフコート西野 82戸
- ライフコート手稲 81戸
- ライフコート手稲西 78戸
- ライフコートガーデン南館 81戸
- ライフコートガーデン東館 80戸
- ライフコート西宮の沢 80戸
- ライフコートステラ 51戸

タナカメディカルグループ
www.tanakamedical.net

★ 音楽、スポーツ、舞台などの
チケット購入はネットでラクラク♪

道新プレイガイド
オンラインストア

道新プレイガイド 検索

<https://doshin-playguide.jp>

無料メルマガ会員募集中!

ご購入
お問い合わせ **道新プレイガイド** [営業時間] 10:00~17:00 (日曜定休)
TEL.0570-00-3871

Hotel Monterey Group

ホテルモントレで
異国情緒を味わう

まるで異国に訪れたようなヨーロッパ
テイストの館内で優雅なひとときを
お過ごしください。



ban.K
札幌都心から20分
札幌市中央区盤渓410
www.bankei.co.jp

SAPPORO BANKEI SKI AREA
さっぽろばんけいスキー場

この夏、ばんけいに
**キャンプ場が
OPEN!**

〒064-0945 札幌市中央区盤渓410番地 TEL.011-641-0071
www.bankei.co.jp



冠婚葬祭
あいプラン つみたててる??
AIPLAN

会員募集中!

(お問い合わせ・お申し込みは)
●お客様相談センター
☎0120-335-924



「伸びる」
「できる」
「にはワケがある。」

RENSEIKAI GROUP

個別指導 **3.14** 可能性は無限



「目とメガネの専門家」としてお客様の視る力を最大限に引き出します。

困ったとき、富士メガネ

- メガネの修理承ります
他社でおつくりになったメガネも修理します。
- 補聴器のご相談承ります
正確な測定に基づく適切な機器の選定と調整が必要です。

高品質メガネセット11,000(税別)円より

視力ケアのスペシャリスト
富士メガネ
北海道・東北・関東 / 65店舗



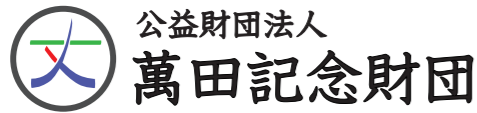
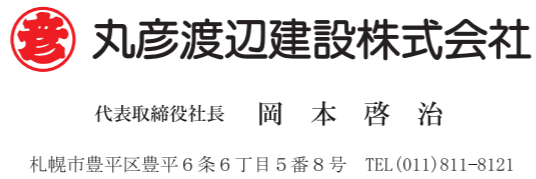
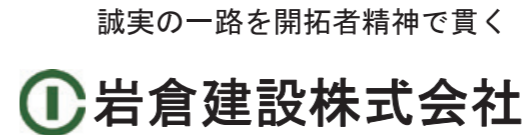
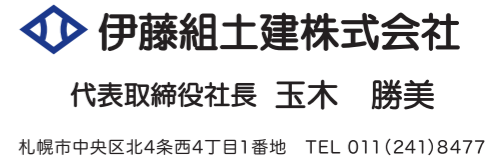

迎旬
フレンチで旬を堪能

DAFNE
RESTAURANT BY MORIHICO



hitaru official sponsors

hitaru official sponsors



INFORMATION

札幌市民交流プラザの新型コロナウイルス感染症に関する取り組みとご入館に当たってのお願い

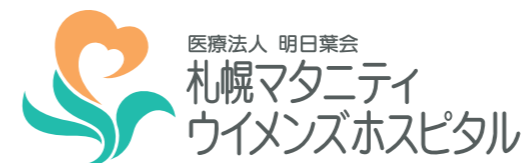
札幌市民交流プラザでは、来館者や利用者、職員等の安全、安心のため、以下の取り組みを行っておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

◎当館の取り組み

- 定期的な館内清掃、換気対応、消毒対応を実施いたします
貸室の鍵及び貸出備品の利用の都度、消毒対応を実施いたします
受付、窓口等では、ビニール、アクリル等の仕切りを設置しております
職員は、検温、手洗い、アルコール消毒を徹底しております

◎ご入館に当たってのお願い

- 発熱や咳き込み等の症状がある場合は、入館をご遠慮願います
館内では、マスクの着用をお願いいたします
手洗い、手指のアルコール消毒をお願いいたします
周囲の方との距離をとってください(2m程度)
ゴミについては、お持ち帰りをお願いいたします



Hitaru official sponsors